

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学部
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 聖書学(旧約聖書学・新約聖書学)、歴史神学、組織神学(宗教哲学を含む)、実践神学の4構成(領域)において、研究演習担当教員への任用を促進し、学生が選択する研究テーマの広がりに対応できる研究教育組織を構築する。	→研究演習担当者の追加任用(2011年度までに1名)。	C	B			
2. 担当の見直しを行い、上記4領域の教員が、「キリスト教神学・伝道者コース」ならびに「キリスト教思想・文化コース」の双方を担当することを分かりやすく明示する。	→担当者を含めた履修モデルの作成と公開(WE B等の広報媒体への掲載、履修指導への反映[心得に掲載]) (2012年度までに作成・公開)	B	B			

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目4.0.1	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。 (説明) 神学部の教育研究組織については、カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施方針)、カリキュラム・マップ策定の過程において検証し、理念・目的に照らして適切であると確認されている。
☆ 小項目4.0.2	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ ● 検証している ○ 検証していない (説明) 2010年度には、ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)、カリキュラム・ポリシーと、それらに基づくカリキュラム・マップを策定する過程において、教育研究組織の適切性について検証を行った。
その他	

《評価指標データ》

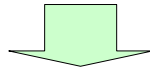
- 博士研究員（PD）の受入状況
- 日本学術振興会特別研究員（DC、PD）の受入人数
- 研究誌発行状況
- 提携大学との研究誌等の交流状況（送付・受入）
- 専任教員の発表論文数【基本的な指標データ】
- 学術賞の受賞状況【大学基礎データ】
- 学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数
- 21世紀COEプログラムの採択状況
- 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況【基本的な基礎データ】
- 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択状況【基本的な基礎データ】
- 特定プロジェクト研究センター制度の活用状況【基本的な基礎データ】
- 国際学会でのゲストスピーカーの延べ回数

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	2011年4月1日付で、助教1名を准教授に昇任させ、「特殊研究演習」を担当するようにした。学生が選択する研究テーマの広がりに対応できる体制がより整えられた。
★小項目4.0.2	
その他	



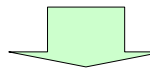
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	学生が選択する研究テーマの広がりに対応できるよう、さらに、研究演習担当教員の任用を目指す。
★小項目4.0.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	
★小項目4.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	
★小項目4.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○研究演習担当教員の充実が順調に進んでいます。

【学内委員】

○小項目4.0.2について、定期的に検証する仕組みの構築に向けた方策を述べることを望まれます。

○目標の1. において「2011年度までに1名」としていた研究演習担当者の追加任用を果たしたという点で、ほぼ目標は達成されたと思われます。

○小項目4.0.2の現状説明で2010年度はD P、C P策定の過程で検証が行われたということですが、「定期的に」検証する仕組みを構築されることが望まれます。

○本項目について、大学基準協会は「教育研究組織は、大学における活動単位として機能するものであり、各大学の特徴はもとより、学問の動向や社会的要請、大学を取り巻く国際的環境に適切に対応したものである必要がある」と解説しています。従って、神学部が大学の理念・目的を踏まえ、これらを満たしているかを聞いていると考えます。この視点で記述をご検討ください。

○教員の任用、担当は他の項目（「6.2 教育課程・教育内容」「11 教員・教員組織」）での記述内容です。

○理念・目的の検証と絡んで、組織の適切性については絶えず検証が必要です。

○小項目4.0.2について、「定期的に」検証できる仕組みの具体化が望まれます。

【大学基準協会:評価に際し留意すべき事項】

○小項目4.0.1

基盤評価：なし

達成度評価：「教育研究組織が、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものである」

○小項目4.0.2

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育研究組織の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 神学部は、キリスト教主義に基づく大学の理念・目的に謳うところの「広範な知識の授与」、「専門分野の教授研究」および「人格の陶冶」に沿った教育目標を掲げ、キリスト教神学の見地から、現代の社会的課題に対処すべき「健全な社会人」を育成することを重視している。そのような観点から、扱う専門領域〔聖書学（旧約・新約聖書学）、歴史神学、組織神学（宗教哲学を含む）、実践神学〕を設定し、キリスト教伝道者コース、キリスト教思想・文化コースをともに担うべく教員組織を整備している。